



「ひょうご仕事と生活センター」表彰企業紹介

女性が輝く理想の職場

県内の中小企業と多様な人材とのマッチングを目指している神戸新聞社の「Mラボ」事業では、女性の就職支援にも力を入れている。企業で多様な人材が活躍することは、社員一人一人のやる気の向上につながる。仕事の効率アップも図れる。ひょうご仕事と生活センター」が2015年に表彰した企業・団体の中には、女性が働きやすい環境を整え、その活躍を後押しし、積極的に登用する動きが広がっている。表彰理由となった「女性も働きやすい職場の実現」に取り組み3社の事例を紹介する。

株式会社基陽(三木市)



社長の扉は開きっぱなし。藤田尊子社長が率先して対話。適材適所を重視、女性社員の職域拡大にもつながった。三木市別所町、基陽

社長の藤田尊子さんは3年前の社長就任以来、月に1回の全社員との面談を続けている。社外の社会保険労務士との定期的な面談は、相談の場にもなっている。その効果を総務主任の南浩一さんは「周囲から必要とされることで、もっと前向きに学ぶ姿勢が身につく。サポートに対し感謝し合えるように、自分も他の社員も意識が変わった」と話す。

安全保護用メーカとして自社商品を知る勉強会を社員が自主的に開く風土が生まれ、会社も社外の研

社長の藤田尊子さんは3年前の社長就任以来、月に1回の全社員との面談を続けている。社外の社会保険労務士との定期的な面談は、相談の場にもなっている。その効果を総務主任の南浩一さんは「周囲から必要とされることで、もっと前向きに学ぶ姿勢が身につく。サポートに対し感謝し合えるように、自分も他の社員も意識が変わった」と話す。

入社5年目で初の女性係長になった毛利優さん。周囲の支えのもと成長を続けている。

株式会社マインズ(姫路市)



育児中の女性社員。復帰まで温かく見守る社風が、業界内では珍しい低い離職率となっている。

「人材派遣」「社会保険労務士としての採用・定着のアウトソーシング」就労支援の三つが事業の柱。2008年の創業以来、採用した25人のうち退職したのは1人という低い離職率を誇る。社長の河本尚吾さんが大切にしている価値観は「好奇心を持って働くこと」だ。「一人で完結できる仕事はない。取引先も協力業者も社員も、人と関わって人生は豊かになる」と考える。新入社員が入ってきたら、先輩社員の方からあいさつをし、部署を超えて声を掛けることが当たり前の



幹部社員の1人として活躍する富田葉月さん。27歳で部門のチーフマネージャーを務めている。姫路市栗山町、マインズ

能力を可視化し仕事を補完

株式会社リベラル(三田市)



今年から「短期間正社員」に登用された宮藤さん(右)と楠本さん。よりやりがいを持って働く環境が整備されている。三田市南が丘2、リベラル

午前9時。約15人の従業員が三田市の本社から出発するバスに乗り合わせ、受託先である神戸市内の会員制リゾートホテルに向かう。3人1チームになって清掃を担当。清掃する客室は1日60室あり、全てが終了するの午後3時。そこから本社にバスで戻った後、解散する。清掃事業部の従業員は全員子育て中の女性ばかりだ。子育て中の主婦が働くにはちょうどいい時間の仕事なので、清掃事業の受託を少しずつ増やしていきたく」と社長の石井幸子さんは話す。

勤務時間を調整できるフレックスタイム制を導入。事業所内には託児所も整備された。子育て中の女性従業員が安心して仕事を行えるように整備した「事業所内託児所」



子育て中の女性従業員が安心して仕事を行えるように整備した「事業所内託児所」

助け合いの精神育む社風

「慣れない仕事に戸惑う気持ちになった。富田さんは9月に有期契約から正社員になることを社長から打診され、受け入れた。河本社長は「男性も女性も最大限の能力を発揮しながら、仕事も生活も全力で打ち込める環境を絶対につくろう」と思っている。積極的に女性の採用を増やしていく。同社ではお互いの仕事を補完できるようにするため

託児所設けフレックス制も

「マトリックスシート」の1人として会社を引っ張るを導入している。仕事の技能を横軸、人を縦軸に取り、各技能を5段階のレベルに分け、誰がどのような業務をどの程度できるかが一目で分かるようになっていく。導入後は、各社員がさまざまな状況で休めるようになるために、誰がどの技能を習得しなければならないかが分かり、自分に足りないスキルも見えるようになったという。

やる気引き出す社長面談

社長の藤田尊子さんは3年前の社長就任以来、月に1回の全社員との面談を続けている。社外の社会保険労務士との定期的な面談は、相談の場にもなっている。その効果を総務主任の南浩一さんは「周囲から必要とされることで、もっと前向きに学ぶ姿勢が身につく。サポートに対し感謝し合えるように、自分も他の社員も意識が変わった」と話す。

「適材適所」で職域を広げる

「適材適所」で職域を広げる